

銀行という職場

— 元銀行員から、就職について考える若者へ —

終章 よりよい就職のために

終身雇用制が緩んだとは言っても、基本は変わっていませんから、就職は今でも人生の方向を大きく変える最大のイベントの一つです。したがって、就職先を決める際には、十分な検討が必要です。

重要なポイントは、「銀行とはどういう職場で、銀行に就職すると自分の将来はどのようなものになるのだろうか」という就職先に関する考察、「自分は何が得意で何が好きで、何が苦手で何が嫌いなのか」という自己分析、「自分の欲しいものは何か。金か、名誉か、社会貢献の充実感か、自由時間（ワーク・ライフ・バランス）か。そのためにリスクが採れるか」といった目的の設定、の3つです。

私はこれまで、銀行という職場について御話してきました。「百聞は一見に如かず」ですから、なかなかイメージしていただけない部分も多かったかもしれませんが、それでも何らかの参考にはなったと思います。同じような話を様々な職業の人々から聞き、あるいは本を読み、様々な職業について、イメージを持って下さい。サラリーマンに限らず、自営業についてもベンチャービジネスについても、幅広くイメージしてみてください。

次は、自分自身についての分析です。算数が得意か国語が得意か、といった点数化できるものではなく、対人関係と書類の読み書きのいずれが得意か、いずれのストレスが少ないか、といった事を考えましょう。これも、実際に働いた事が無いと、難しいでしょう。しかし、サークルの人間関係が上手でリーダーシップのある人、課題について調べてレポートを書くのが上手い人、好きな人、などは学生時代から見当が付くでしょう。

あとは、アルバイトなどをしてみると、社会の様子が少しは分かるかもしれません。その中で自分はどの部分を担っていきたいのか、といった事を考える事も有益でしょう。その観点からは、アルバイトを選ぶ際に家庭

教師などではなく、コンビニなどでもなく、なるべく事務所の電話番号やコピー取りのような仕事が望ましいと言えるでしょう。それが無理でも、飲食店で接客をしながら営業の仕事や管理職（店長など）の仕事に就いている自分をイメージする、といった事は可能でしょう。

最後は働く目的を明確化する事です。これは、個々人の人生観と密接に関わる問題です。たとえば小児科の医師は、夜中も救急で起こされて大変ですが、子供の命が救えるという仕事は、大変にやりがいのある仕事でしょう。こうした仕事を選ぶのか否かは、人生観の問題です。

リスクについても考える必要があります。外資系金融機関は、成功すれば巨額の報酬がもらえますが、雇用の保障がないので、リスクも大きな仕事です。「夢を求めてリスクを採る」のか、堅実に日本企業に就職するのか、といった選択も、人生観の問題です。

海外での勤務を望むのか避けるのか自然体なのか、という点も大きいと思います。日本企業は、海外で通用する人材が不足している例が多く、ひとたび「海外要員」とカウントされると、比較的長い間海外で勤務させられる場合も多いので、海外展開をしている企業に就職する際には、そのような可能性を考えた上で、それが自分の人生設計に合っているか否かも、よく考える必要があるでしょう。

現在についてのみならず、その職業が 30 年後にどう変化しているか、自分の価値観が 30 年後も変化していないか、という事も考えて見ましょう。これは、極めて難しい事ですが、30 年勤める会社を決めるのですから、真剣に考えましょう。結果として予想が外れる可能性も大きいのですが、それでも真剣に考える事には重要な意味があります。一つは、成功する可能性が少しでも高まるということです。いま一つは、考える過程で世の中や自分についての理解が深まることです。

そして、いま一つ重要なことは、結果として予想が外れても、真剣に考えた結果の判断であれば、後悔する必要が無いということです。不運な結果となっても、不運を嘆くだけで済みます。自分を責める必要はありません。しかし、真剣に考えなかった結果として不幸せになれば、それは自分を責める原因ともなりかねません。その差は決して小さくないのです。

繰り返しになりますが、就職は、自分の一生を決める重大な選択です。くれぐれも後悔する事の無いように、全力で取り組んでください。

以上です。